

2015

StockFinder マニュアル

株価各種指標の取得と可視化

StockFinder は、インターネットで公表されているデータを取り込み、
市場の様相・指標間の関係性
株価推移を可視化します。

Katsuyama.Shin
OFFICE-KATSUYAMA
2015 年 12 月

内容

はじめに	2
このソフトでできること	3
株式情報チェック。 [Data]	4
潮目をつかむ。 [History]	14
有望銘柄を発見。 [ScatBrand]	21
指標連動性を知る。 [ScatHistory]	24
サインアップ	27
おわりに	30

はじめに

本ソフトをダウンロードいただきありがとうございます。

本ソフトは、株式情報をインターネットから取得し、株価の値動きの兆候、銘柄の分散状況、銘柄による指標の関係を可視化するツールとして開発したものです。

●株式情報チェック。 [Data]

- ・日本経済新聞 HP、松井証券 HP に掲載されている情報を収集。
- ・収集したデータを銘柄ファイルに蓄積。
- ・財務情報は 1 枚のシートにわかりやすく表示。

●潮目をつかむ。 [History]

- ・トレンドラインにより、抵抗線・支持線を自動作成。
- ・ローソクシグナルをチャートに表示
- ・ニュースを良・悪・普に分類してチャートに表示
- ・各指標、他銘柄の指標をローソクチャートに重ねて表示することができます。
- ・運用シミュレーションにより、運用成績に寄与する指標を検討できます。

●有望銘柄を発見。 [Scat Brand]

- ・銘柄を絞込み、指標で散布します。
- ・散布された銘柄ポイントをクリックすると、情報ラベルが表示されます。
- ・表示された情報をクリックすると、その銘柄の Data シートを開きます。

●指標連動性を知る。 [Scat History]

- ・株価の各指標との連動性を散布図で確認できます。
- ・相関線を描画します。相関係数に応じて、線の太さを変化させます。
- ・ポイントをクリックすると、その銘柄のデータシートを開きます。

●チャート設定の保管

- ・チャートファイルは本体のファイルとは独立させ、保存する仕様としました。
- ・チャート設定は分析手法などに分けてファイル名を付けて保存できます。
- ・発見した分析手法に名前を付けてファイルに保存しましょう。
- ・チャートには株式データが蓄積されるため、分けることで本体ソフトを軽くしています。

本ソフトには、Excel2013 が動作し及びインストールされインターネット接続された環境のパソコンが必要です。

パッケージには、本マニュアル及び StockFinder.xlsm, SF_Readme.txt が梱包されています。

本ソフトのためのフォルダを用意し、そこに StockFinder.xlsm をコピーしてください。

そのフォルダの下に必要なサブフォルダ、ファイルが生成されます。

初期起動には、必要なフォルダ、ファイルを準備するために、数分の時間がかかります。(不具合ではありません)

このソフトでできること

株式データを収集・計算し、潮目、市況、指標連動を確認します。

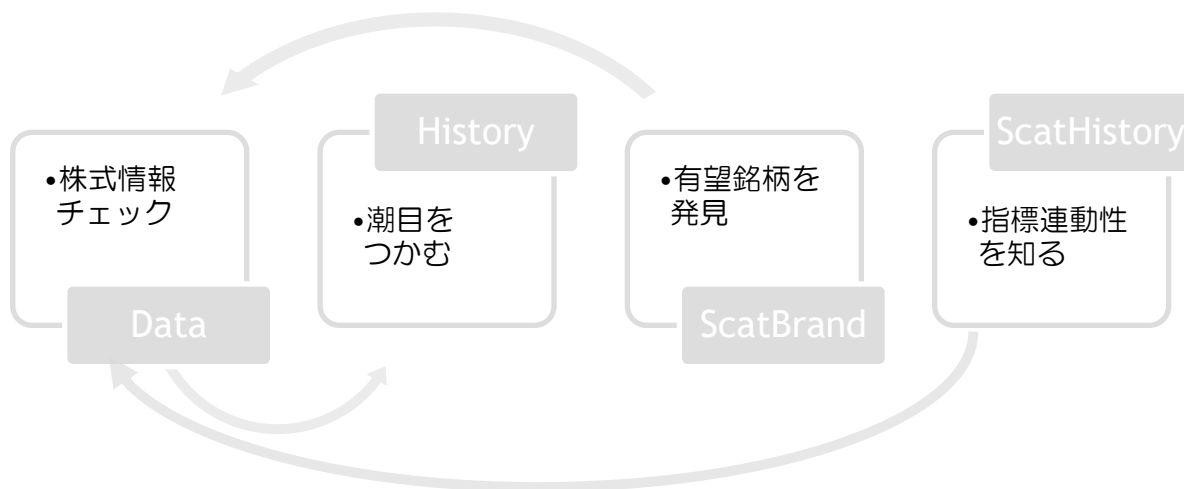


図 1 イメージ



図 2 操作

[Data]

……株式データを収集

[History]

……時系列チャート作成

[ScatBrand]

……指標をXYに取り、銘柄を2次元チャートに散布

[ScatHistory]

……指標をXYに取り、日付を2次元チャートに散布

株式情報チェック。

[Data]

株価及び各種指標、ニュース、財務情報を収集。

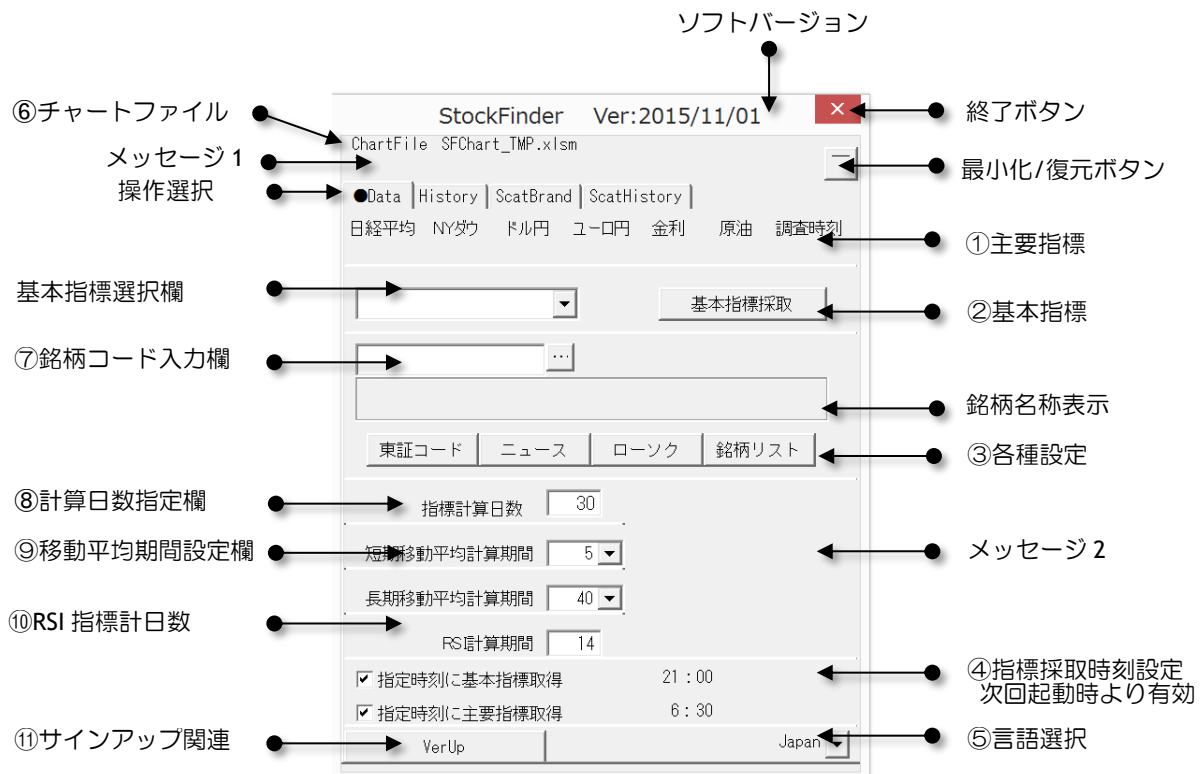


図 3 [Data]

インターネットにより銘柄情報を収集します。



図 4 東京証券取引所

図 4は 2015 年 4 月 22 日 9:04 日経平均 2 万円を回復した日の東京証券取引所の様子です。私はたまたまその場に遭遇しました。東京証券取引所には、大空間の中におかれた、ガラスのシリンダーの中のメインのコンピューター端末と、大きなディスプレイと、マスメディアのブースで構成されています。見学者、マスコミがまばらにいる外、ここに来て取引する人はいません。みな、インターネット等により取引を行っています。2 万円を回復して歓声を上げる人もいません。本ソフトは、日本経済新聞 HP・松井証券 HP より株価を入手して、データを蓄積し、整理された情報として可視化します。本ソフトのデータ収集について説明します。

① 主要指標

クリックすることで、表示された指標のその時刻における指標を表示します。

② 基本指標採取

基本指標選択欄に指標ファイル名が記載されている場合は、その指標を採取。空欄の場合は、全ての基本指標を収集します。

基本指標: 日経平均株価, 東証株価指数, JASDAQ, ドル/円, ユーロ/円, NY ダウ, 原油価格連動型上場投信託, 金価格連動型上場投資信託, 穀物指数連動受益証券発行信託, 上海株式指数, VIX短期先物指数, 日経 VI 先物指数

③ 各種設定

東証コード

StockFinder を起動すると本ソフトを置いたフォルダの下に **ToshoBrandCode** というフォルダが自動生成されます。そのフォルダに、

<http://www.jpx.co.jp/markets/statistics-equities/misc/01.html> に毎月アップされる東京証券取引所上場銘柄コードの 12 個のエクセルファイルで作成されたリストをダウンロードして、登録してください。(その際古い銘柄コードエクセルファイルはサブフォルダなどに退避するか削除して、本ソフトが検索対象としないようにします。)

そのうえで、このボタンを押すと採用可能な銘柄が更新されます。

上場銘柄リストは、変化するため、必要と判断される期間ごとに設定しなおす必要があります。

なお、本ソフトで採用可能な銘柄コードは数字 4 桁からなるコードです。

ニュース

日本経済新聞 HP にアップされる銘柄ニュースを良・悪・普に分けて銘柄ファイルに保管しますが、分類のキーワード及び、振り分け優先順位をこのボタンで設定します。

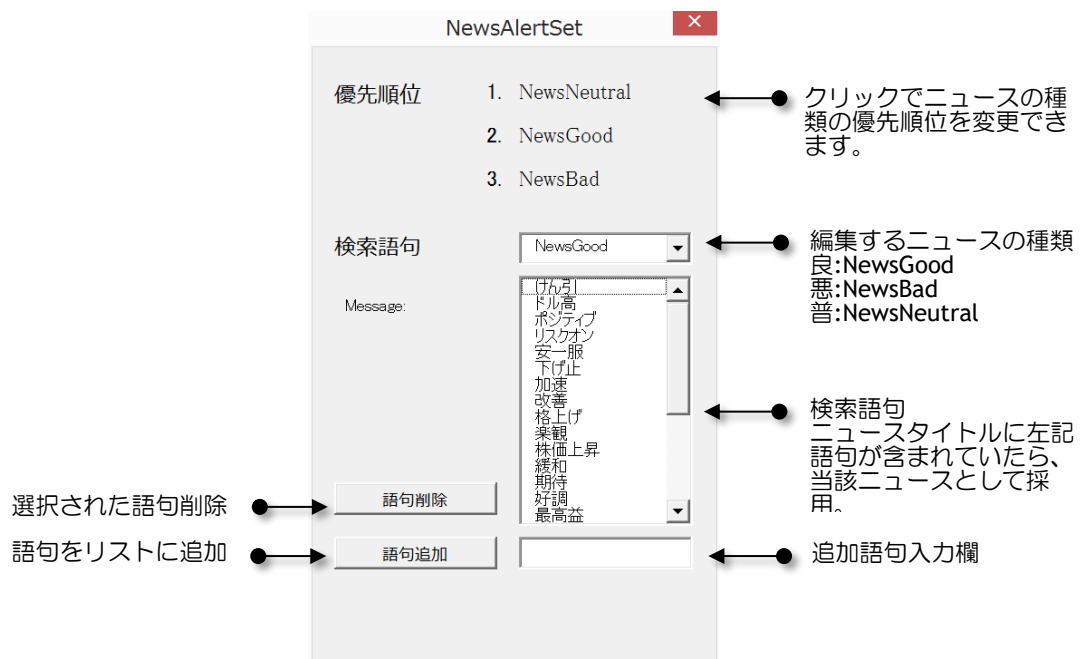


図 5 ニュースアラート設定

ローソク

ローソクシグナルの意味・ピックアップする条件を設定します。

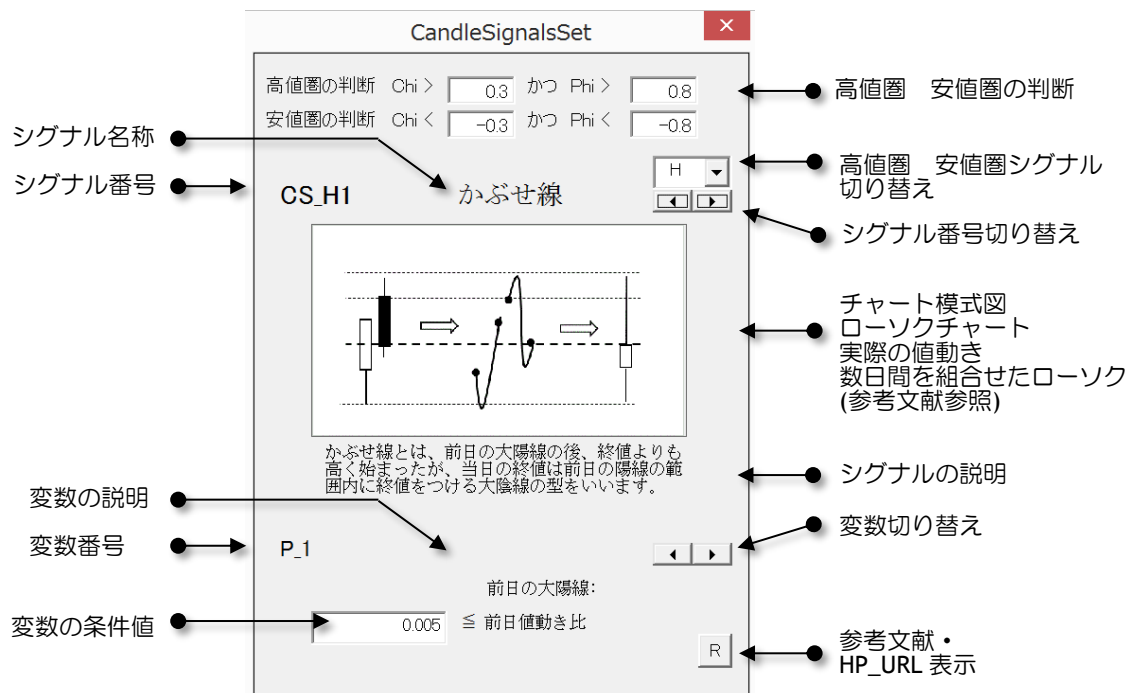


図 6 ローソクシグナル定義

図 6 に示すローソクシグナルを検出する変数の条件を設定します。

高値圏、安値圏の判断は Chi および Phi により判断します。

CS_H1～CS_H14 : 高値圏で注意すべきシグナル

CS_L1～CS_L11 : 安値圏で注意すべきシグナル

チャート図の下テキストは、一般的なシグナルの説明です。編集することも可能です。

P_1 P_2 P_3 …は各シグナルに反応する条件を設定します(ユーザー調整可能)。

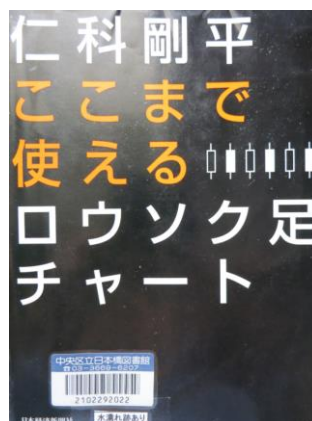


図 7 ローソクシグナルの参考文献

本ソフト作成には、仁科剛平氏の上記著書を参考にしました。

数日のローソクチャートを1本のローソクに表現する手法についての記述があります。

本ソフトで閲覧した銘柄のリストを表示するとともに、銘柄データファイルを開きます。サインアップされている場合には、銘柄リストにより、株式データをインターネットから順次採取できます。自動巡回により、最も貴重な資源である時間の消費から解放され、リラックスした自分の時間として活用することもでき、初期コストは数回の巡回で回収できます。概ね 10 秒程度で 1 件の情報を取得できます。私の環境では、7~8 秒で 1 件のため、500 件巡回するのに要する時間は約 1 時間となります。ROE 自己資本比率の情報は時系列では提供されないため、毎日情報を取得する必要があります。



図 8 銘柄リスト

④ 指標採取時刻設定

基本指標・主要指標の採取時刻を設定します。設定は次回の本ソフト起動時から有効になります。

⑤ 言語選択

ボタン等の表示言語(English/Japan)を選択します。(銘柄名称、ローソクチャートの意味 等 一部日本語の場合があります。また、日本人になじんだ英語表記はそのままとしています。)

⑥ チャートファイル

大量のデータが載ったチャートのあるエクセルファイルはそれだけで、容量が大きくなり、開くの に時間がかかってしまいます。そのため、チャートファイルは本体から切り離して別ファイルとしました。ここには、チャートファイル名が表示されています。

現在表示中のチャートファイルを別ファイルとして保存したり、別のチャートファイルを開く場合は、

ここをクリックすることで、行えます。

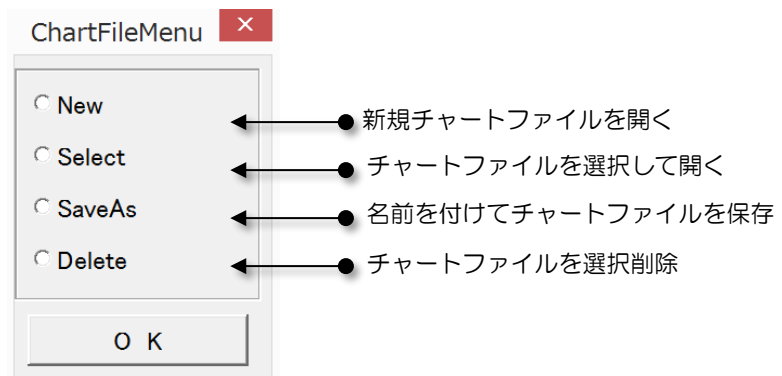
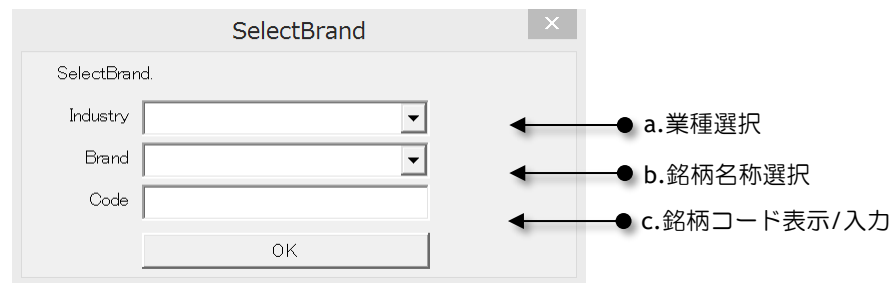


図 9 チャートファイル操作

⑦ 銘柄コード入力欄

4桁の数字からなる株式コードを入力します。

コードが不明の場合は、右隣の[...]を押して、銘柄選択メニューを表示します。



a→b→c または、b→c の順に入力します。

a.業種選択 業種種別を▼ボタンで選択します。

b.銘柄名称選択 a.で指定された業種に分類される銘柄名称を▼ボタンで選択します。b.に最初の数文字が入力されていれば、その数文字で始まる銘柄のみがリスト表示されます。c.銘柄コード表示/入力 b.の▼ボタンで選択された銘柄のコードが表示されます。

[OK]ボタンで、Data パネルの銘柄コード入力欄に選択したコード番号が記載されます。

図 10 銘柄選択

株式コードを入力すると、該当銘柄ファイルを開きます。

Finance	キャノン	時系列データ	http://finance.matsui.co.jp/stockDetail.aspx?code=7751	&type=2
BrandCode	7751	株価情報	http://www.nikkei.com/markets/company/index.aspx?scodes=7751	
調査時刻	2015/11/13 19:08	損益計算書	http://www.nikkei.com/markets/company/kessan/shihyo.aspx?scodes=7751	
業種区分	電気機器	NEWS	http://www.nikkei.com/markets/company/news/news.aspx?scodes=7751&ba=1	

株価	3,738 円	損益計算書	4期前	3期前	2期前	前期	今期
時価総額	4,996,278 百万円	決算期	2010/12 連S	2011/12 連S	2012/12 連S	2013/12 連S	2014/12 連S
普通株式数	1,333,763,464 株	売上高	3,706,901	3,557,433	3,479,788	3,731,380	3,727,252 (百万円)
配当利回り	4.00%	営業利益	387,552	378,071	323,856	337,277	363,489 (百万円)
		経常利益	392,863	374,524	342,557	347,604	383,239 (百万円)
PER (予想)	18.18 倍	当期利益	246,603	248,630	224,564	230,483	254,797 (百万円)
PBR (実績)	1.37 倍	一株利益(EPS)	199.71	204.49	191.34	200.78	229.03 (円)
株式益回り	5.50%	一株配当	120	120	130	130	150 (円)
		決算月数	12	12	12	12	12 (ヶ月)
最低購入金額	373,800 円	貸借対照表(百万円)					
売買単位	100 株	決算期	2010/12 連S	2011/12 連S	2012/12 連S	2013/12 連S	2014/12 連S
年初来高値	4,539 円	総資産	3,983,820	3,930,727	3,955,503	4,242,710	4,460,618
年初来安値	3,402 円	純資産合計	2,809,637	2,713,667	2,754,302	3,066,777	3,140,758
10年来高値	7,450 円	営業指標					
10年来安値	2,115 円	一株純資産(BPS)					2,728 円
		自己資本利益率(ROE)					8.65%
		売上高経常利益率					10.28%
		自己資本比率					66.77%

図 11 銘柄 Finance シート

⑧ 計算日数指定欄

何営業日前からの指標を計算するかを指定します。

⑨ 移動平均期間設定欄

短期移動平均 及び、長期移動平均 を求める日数を選択します。

本ソフトでは、5 日 10 日 40 日 120 日 240 日から選択することとしました。日数は休日を含まない営業日ですので、5 日は 1 週間、10 日は半月 40 日は 2 ヶ月 120 日は半年 240 日は約 1 年間となります。

Chi Phi Trend の各指標 時系列チャートの広さの自動設定にこの期間を採用しています。

短期移動平均 長期移動平均とも 採用期間の終値の平均値を採用しています。

Chi = 終値ベースで (短期移動平均 - 長期移動平均) ÷ 長期移動平均 × 10

Voi = 出来高ベースで (短期移動平均 - 長期移動平均) ÷ 長期移動平均

Phi = 長期移動平均期間の終値の最大を 1 最小を-1 としたとき、の短期移動平均の値

時系列チャートの広さは初期状態で長期期間の 3 倍としました。

Trend の各指標は長期期間の 3 倍の中で、値動きの変動により最大 3 分割して求めています。

⑩ RSI 計算期間

RSI の計算期間は、一般的に 14 日とされています。ここで変更することは可能です。RSI は通常は 0~100 の値で表現しますが、採用した他指標との表示を合わせるため、-1 ~1 の値をとるように調整しています。

⑪ サインアップ関連ボタン

初期状態の表示は[SignUpOrder]となっています。

サインアップ・バージョンアップ等の処理を行います。

サインアップは、サインアップオーダーを作成したパソコンおよびソフトでのみ有効です。

一度押すと、SF_SighUpOrder.txt を StockFinder と同じフォルダに作成します。その後、表示は [SignUp]に変わります。所定の手続き後、当方よりアカウントとプロダクトキーが届いたら、そのボタンを押して、サインアップ処理を行います。その後表示は、[VerUp]に変わります。

VerUp は新しいバージョンの StockFinder がリリースされたとき、所有のアカウントを新しいバージョンの StockFinder に乗せるためものです。(初期サインアップから 365 日間有効です。)

そのボタンを押すと SF_VerUpFrom_#####.xlsx というファイルが作成されます。その後古い StockFinder を別フォルダに退避してください。そして、ダウンロードした新しい StockFinder をフォルダにコピーして、起動すると、バージョンアップが完了します。

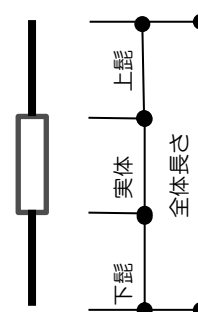
●指標について

採用している指標は以下の通りです。収集及び算出結果は、銘柄ファイルの History シートに保管されます。

• 株式指標等

Open	: 始値
High	: 高値
Low	: 安値
Close	: 終値
Volume	: 出来高
始値前日比	: $(\text{Open} - \text{前日 Close}) \div \text{前日 Close}$
高値前日比	: $(\text{High} - \text{前日 Close}) \div \text{前日 Close}$
安値前日比	: $(\text{Low} - \text{前日 Close}) \div \text{前日 Close}$
終値前日比	: $(\text{Close} - \text{前日 Close}) \div \text{前日 Close}$
出来高前日比	: $(\text{Volume} - \text{前日 Volume}) \div \text{前日 Volume}$
日中値動き比	: $(\text{Close} - \text{Open}) \div \text{Open}$
下髭比	: $\text{下髭長さ} \div \text{実体長さ}$
上髭比	: $\text{上髭長さ} \div \text{実体長さ}$
蠟燭比	: $\text{実体長さ} \div \text{ローソク全体長さ}$

銘柄による日中の値動き比を確認します。



5CMA 10CMA 40CMA 120CMA 240CMA : 終値移動平均 (数値は平均値算出期間)

5VMA 10VMA 40VMA 120VMA 240VMA : 出来高移動平均(")

ChI = 終値の (短期移動平均-長期移動平均) \div 長期移動平均 $\times 10$

ChR ChI の前日からの変化率

Vol = 出来高の (短期移動平均-長期移動平均) \div 長期移動平均

VoR Vol の前日からの変化率

Phi = 長期期間における短期移動平均の最大値を1とし、最小値を-1となるよう変換する。この指標はその日の短期移動平均を変換によって求めた値。

PhR PhI の前日からの変化率

RSI : RSI 指標 (-1~+1)

Trend : トレンドラインの傾き

TrendR : $\text{Trend} \div \text{短期移動平均} \times 100$

(-1.0~+1.0 で推移するようにピークカットを設定)

TrendR=1.0 のまま推移すれば、100 営業日後に株価は 2 倍になります。TrendR=1.0 とは、一日に 1%上昇し、100 日で 100%上昇することを意味します。

TrendT : 抵抗線(TrendTLine)の当日の値

TrendM : トレンド(TrendMLine(非表示))による予測値

TrendB : 支持線(TrendBLine)の当日の値

TrendC : $\text{トレンドラインクロスからの日数} \div 100$ マイナスは過去

この値がプラスということは、三角持ち合いを形成して、上下のトレンドラインが未来に向けて閉じようとしていることを示します。マイナスであれば、トレンドラインが開いていることを意味します。

他の指標と値の範囲をそろえるため、数値を 100 で割り、-1.0 ～+1.0 で推移するように、ピークカットを施します。

Peakout

:トレンド値からのかい離率、TrendT→1、TrendB→-1

プラスの場合 $(\text{終値} - \text{TrendM}) \div \text{絶対値}(\text{TrendT} - \text{TrendM})$

マイナスの場合 $(\text{終値} - \text{TrendM}) \div \text{絶対値}(\text{TrendB} - \text{TrendM})$

他の指標と値の範囲をそろえるため、数値を 100 で割り、-1.0 ～+1.0 で推移するように、ピークカットを施します。

私自身 Chi は株価の高安について、他銘柄と比較するうえで重宝しています。

長短移動平均の算出期間は[Data]の⑨でユーザーが設定します。

この設定は Trend の算出にも影響します。

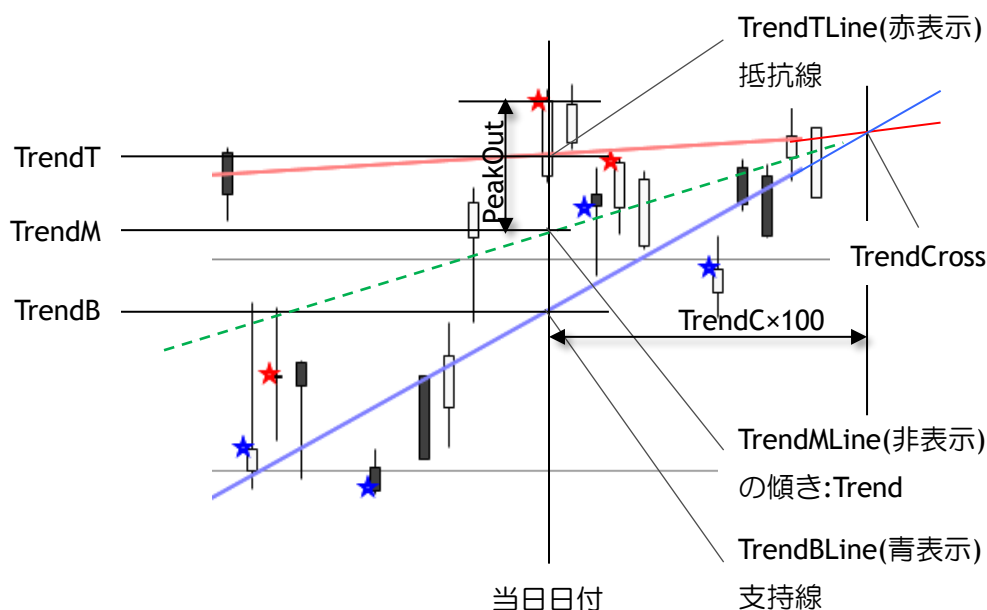


図 12 トレンドライン各指標のイメージ図

トレンドラインはピークの出現により日々変化するので、固定的なものではありません。トレンドライン関連の指標は、計算日までの情報のみによって算出しています。この図はあくまでもイメージであるため、当日以降の情報も表示しています。

・財務指標等

以下の指標は日本経済新聞 HP で公表されている集計値です。

PER	: 株価 ÷ 予想一株利益
PBR	: 株価 ÷ 一株当たり純資産
ROE	: 自己資本利益率(当期利益 ÷ 自己資本)
EPS	: 一株当たりの利益実績値
BPS	: 短期短信発表の一株純資産実績値(日経 HP)
売上高	: 企業が製品、商品、サービスを提供した見返りとして得る収入。(日経 HP)
営業利益	: 売上高から売上原価、販売費および一般管理費などの諸経費を引いて計算。(日経 HP)
経常利益	: 営業利益に受取利息、配当金や支払利息など営業外収支を加味した数字。(日経 HP)
当期利益	: 経常利益に、通常の企業活動以外で発生した特別損益、法人税負担などを加味した数字で、当期純利益、最終利益、税引き利益などとも呼ばれます。(日経 HP)
一株配当	: 一株当たりの配当実績値
総資産	: 貸借対照表の左側の資産の部の合計数値。(日経 HP)
純資産合計	: 貸借対照表の「資産の部」から「負債の部」を差し引いた額に、株主資本は資本金と資本剰余金、利益剰余金、自己株式

	の合計とより限定された額に、自己資本は純資産から新株予約権と少数株主持ち分を除いた金額(日経 HP)
時価総額	: 証券営業日の 20 時頃更新します。単位は百万円。(日経 HP)
株式益回り	: 株価収益率(PER)の逆数です。単位は%。証券営業日の経常利益実績値を売上高や営業収益の実績値で除して算出します。銀行、保険は経常利益を経常収益で除して算出します。米国会計基準の場合、経常利益の代わりに税引き前利益を使用します。(日経 HP)
売上高経常利益率	: 経常利益実績値を売上高や営業収益の実績値で除して算出します。銀行、保険は経常利益を経常収益で除して算出します。米国会計基準の場合、経常利益の代わりに税引き前利益を使用します(日経 HP)
自己資本比率	: $\text{自己資本} \div \text{純資産}$
利益前期比	: $(\text{当期利益} - \text{前期利益}) \div \text{前期利益}$
成長率	: $(\text{当期純資産} - \text{前期純資産}) \div \text{前期純資産}$
配当前期比	: $(\text{当期配当} - \text{前期配当}) \div \text{前期配当}$
配当利回り	: 配当利回り

・銘柄ニュース

ニュース	: 日本経済新聞 HP のニュースタイトルを分類して保管 ユーザーが定義するキーワードにより、ニュースをピックアップ NewsGood NewsBad NewsNeutral の 3 種類に分類します。 二つ以上の種類に属するキーワードがある場合、優先順位により、分類されます。
------	--

・ローソクシグナル

ローソクチャートから読み取れるシグナルを表示しています。

CS_H : 高値圏で出たら要注意のシグナル 1~14

CS_L : 安値圏で出たら要注意のシグナル 1~11

ローソクシグナルは同じ日に複数のシグナルが立つことがあるため、算出した値で 2 のべき乗を算出し、その合計を記録しています。内容確認は、時系列チャートでシグナルをクリックすることで行います。

潮目をつかむ。

[History]

株式情報を時系列に表示し、株価の変化を確認します。

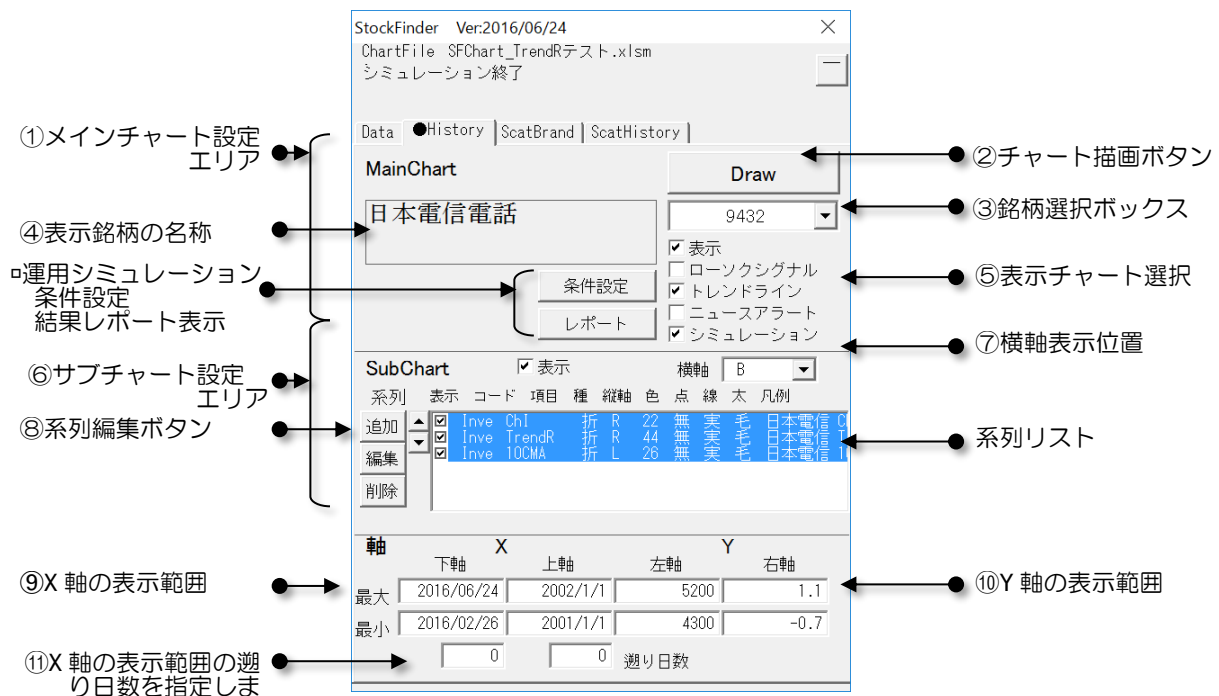


図 13 [History]

収集した情報を時系列チャートに表示します。

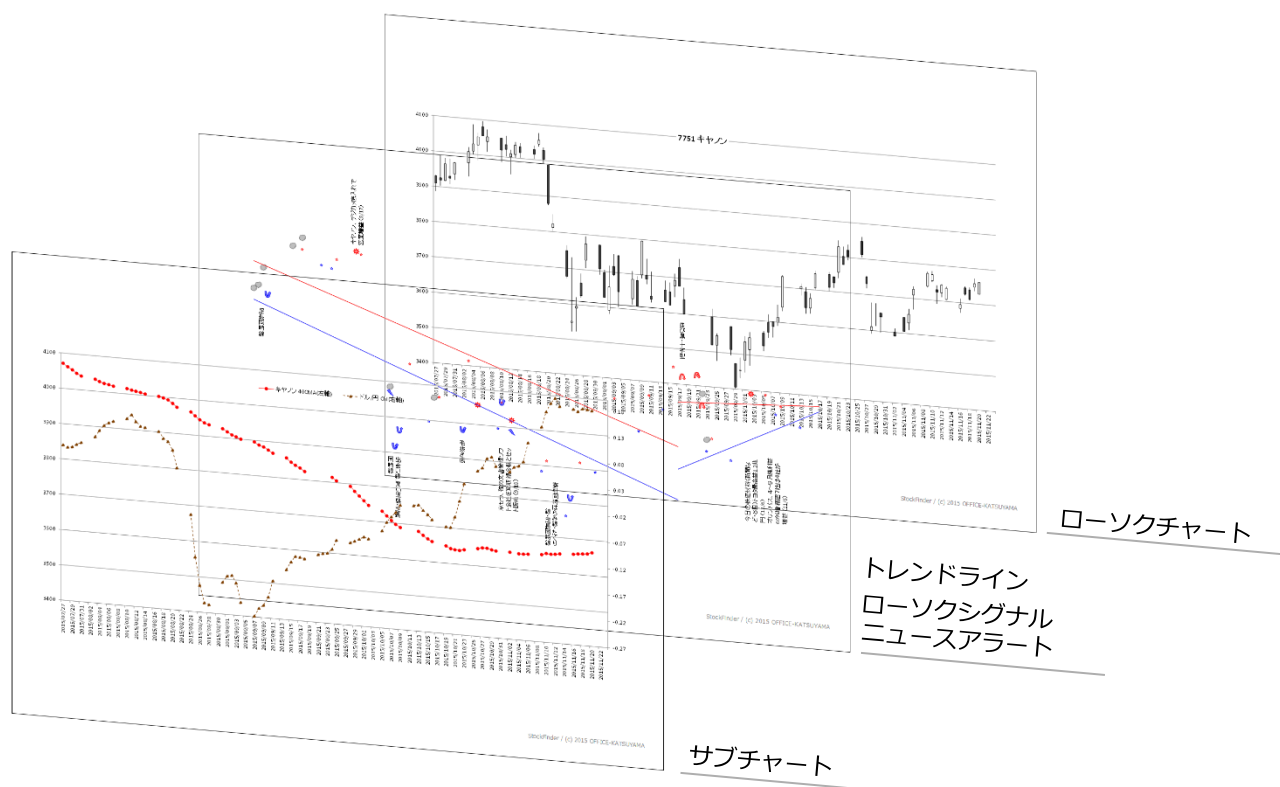


図 14 多重チャートによるテクニカル分析

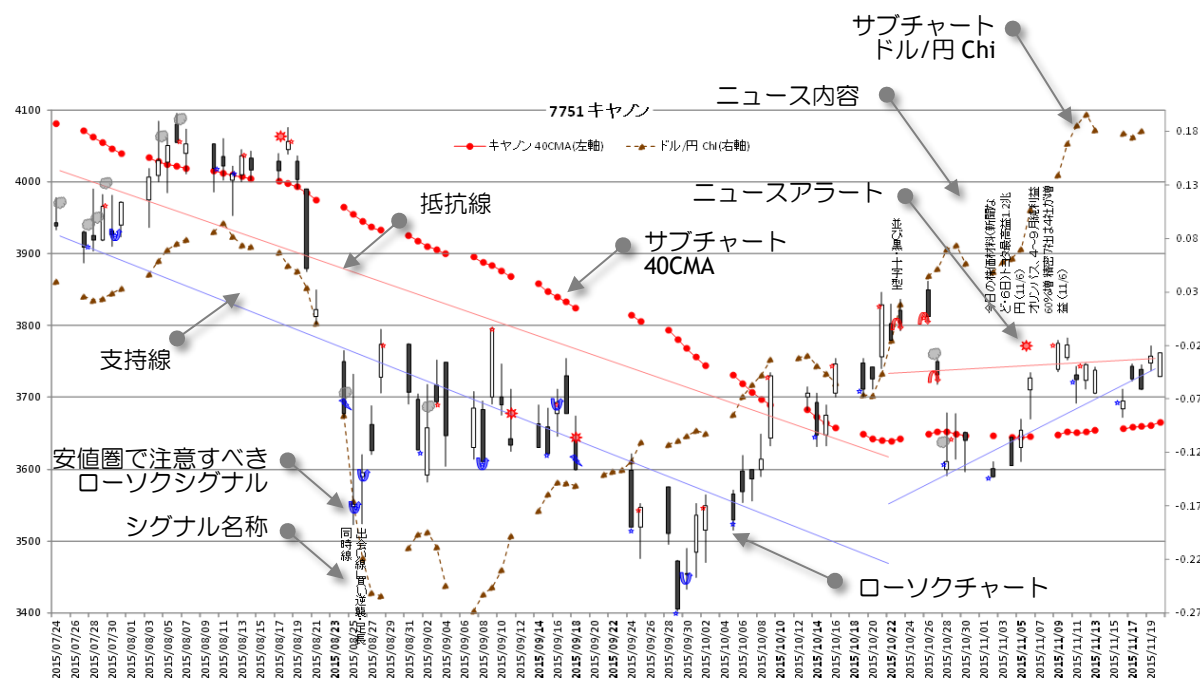


図 15 Historical チャート

時系列チャートは潮目の判断材料を提供します。

■メインチャート

①メインチャート設定エリア

ローソクチャートをベースにするチャートを設定します。

[History]オープン時は、Data で表示中の銘柄を採用します。

②チャート描画ボタン

表示されている銘柄の時系列チャートを設定に従って描画します。

③銘柄選択ボックス

時系列チャートを表示したい銘柄コードを選択します。

④表示銘柄の名称

銘柄選択ボックスに表示された銘柄コードに対応する銘柄名称を表示します。



このエリアをクリックすると銘柄ファイルを開きます。

⑤表示チャート選択

表示チャートを選択します。



☒表示ローソクチャートを表示します。

☒ ローソクシグナル ……ローソクシグナルを表示します。

ローソクシグナルを  (安値圏で注意) 及び  (高値圏で注意) で表示します。

☒ テンドライン ……トレンドラインを表示します。

トレンドライン(支持線・抵抗線)を表示します。

トレンドラインは短期期間に出現するピークを相関線でつなぐことにより、作図しています。採用しているピークは   で表示しています。

分析者の意図を排し、トレンドラインは機械的に作成します。三角持ち合いなどの確認にも有効です。

※トレンドラインは、計算対象範囲によりピークの出現が異なるため、計算日により微妙に変動します。

☒ ニュースアラート ……ニュースアラートを表示します。

データの設定により収集されているニュースを表示します。

 (良いニュース)  (普通のニュース)  (悪いニュース)

ローソクシグナル及び、ニュースアラートをクリックすると、その内容がチャートに表示されます。再度クリックすると消去されます。

図 15 は、メインチャートとサブチャートを重ねて表示しています。

サブチャートで横軸に上軸(T)を選択すると、チャート上部にサブチャートのための横軸が表示されます。

チャートに表示されているチャートスクローラーを操作することで、表示範囲を修正することができます。

■サブチャート

⑥サブチャート設定エリア ……ローソクチャートに重ねて表示するチャートを設定します。

⑦横軸表示位置

横軸をチャートの上に表示することができます。

この機能は、サブチャートの時間軸をずらして、メインチャートと比較する場合に用います。

通常は下軸(B)に設定します。

⑧系列編集ボタン

サブチャートの系列を編集します。

サブチャートに表示できる最大系列数は6です。

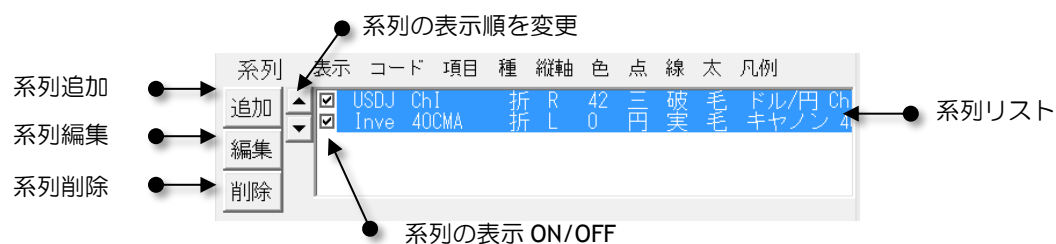


図 16 系列編集ボタン・系列リスト

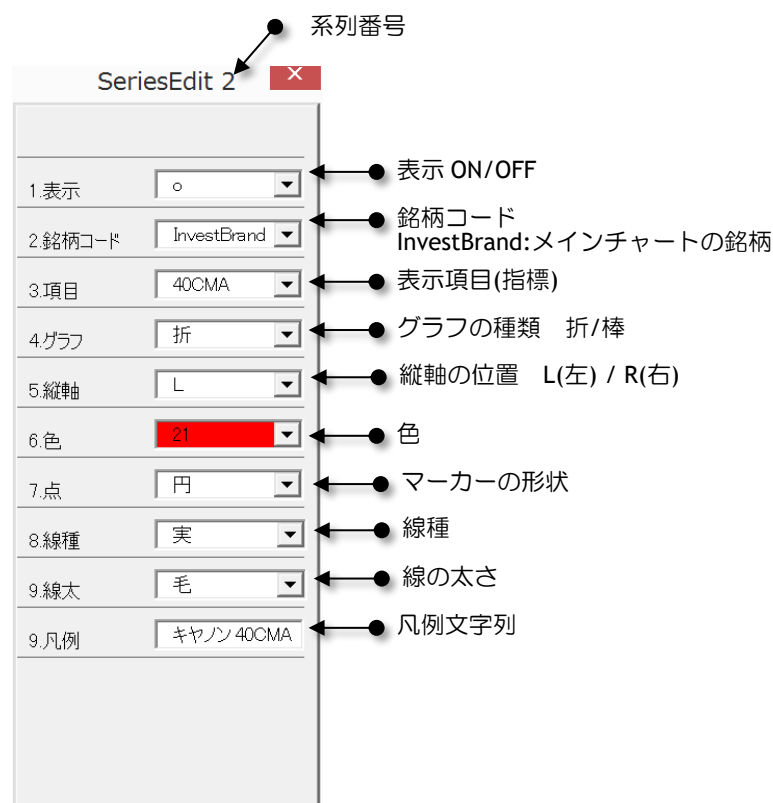


図 17 系列編集メニュー

メインチャートと異なる銘柄を重ねて表示することも可能です。

なおサブチャートの系列の一つは、左軸を参照する必要があります。メインチャートは必ず左軸を参照するため、左軸に設定する指標は株価を設定することを想定しています。

Chi RSI など、比率を現す指標は右軸を参照するように設定するとよいと思います。

■軸の設定

⑨X 軸表示範囲

チャートの X 軸表示範囲は、長期期間 × 3 としています。チャートファイルには、さらにその 3 倍の期間(長期期間 × 9)のデータを保管します。(データが存在する場合)

チャートファイルの Historical シートに表示されているチャートスクローラーで、データの保管された範囲で表示範囲を変更できます。

[History]の X 軸の表示範囲を直接入力することでも変更できます。

⑩Y 軸表示範囲

Y 軸表示範囲は、描画範囲の最大最小値が収まるように設定しています。この欄に直接入力することで、表示範囲を変更できます。チャートスクローラーによっても、表示範囲を変更できます。

⑪X 軸の遡り日数

操作日より、数カ月・数年前のデータを表示したい時など、遡る日数をここに指定します。

過去の値動きと現在の値動きを重ねて確認する等の活用を想定しています。

⑫運用シミュレーション (サインアップユーザー向け)

株の運用成績を上げるにはどのようにすればいいでしょうか。「株は安値を買い、高値を売れ」と言います。しかし、今がその時なのか、確実な判断は不可能と思われます。「売り買いは腹八分」とも言われます。つまりは、トータルで運用益を生み出せる指標の使い方をを見つけることが大切です。本田宗一郎は「多くの人は見たり聞いたりばかりで一番重要な“試したり”をほとんどしない。」と言いました。今回追加のこの機能で、“試したり”をパソコン上で行うことができます。ただし、ここから出てくる結果は、特定の銘柄の一定の期間について、指標を当てはめた結果であって、その他の銘柄はもちろん、未来の期間にやみくもに当てはめてもうまいかないでしょう。銘柄の業種・性質、相場全体の基調をもとに、いくつかの指標組み合わせのパターンを検討する必要があると思われます。パターンごとにチャートファイルに名前を付けて保存すればよいのです。

なお、取引価格は通常可能な取引として、取引日の(高値+安値)÷2としました。

a) 条件設定 (サインアップユーザーでなくても、条件設定は体験できます。)

条件に採用できる指標は、SubChart で選択した最大 6 項目と、ニュースアラート、ローソクシグナルの計 8 項目です。ニュースアラートについては、Good Bad Neutral から、ローソクシグナルについては、採用するシグナルの種類を選択できます。

投資開始時の買力、保有株式取引単位数、借金や空売りを許すか、指標が発生してから取引を行う日数の指定などを行います。

投資期間は、時系列チャートで表示する範囲です。

以下に、表示イメージを示します。

Simulation

初期資金 (買力) 5,000,000
 初期保有株式数/取引単位 3
 初期保有株式数 300
☐ 空売りを許可する。
☐ マイナス資金を許可する
 取引単位 100 株 取引を行うのは 1 日後。 OK

取引はシグナル発生日には論理的にはできない。よってその何日後に取引を行うのか指定します。

取引条件を指定したら、[OK]ボタンを押す。 Sell Buy の両方で指定しなければなりません。

指標がどの範囲にあるときにシグナルを発生させるか指定。(複数選択可)

Use Index Cross SDscale LowBorder HighBorder

☒ 石油資源 Phi ☒ 1.0 ☐ -0.86 ☐ 0.63 ☒

☐ 石油資源 Chi
☐ 石油資源 TrendR
☐ 石油資源 10CMA
☐ 5
☐ 6

0 以外の場合、移動平均から標準偏差の倍率の距離で、Border 値を自動設定します。

条件 OFF→ON でシグナル発生

☐ SellNews ☐ NewsGood ☐ NewsBad ☐ NewsNeutral

ニュースアラートの種類を選択

☐ SellCandleSignal

ローソクシグナルの種類を選択。

※Use Index は 売りの条件を 且つ で選択します。

SubChart で指定した指標が表示される。
 UseIndex にロが入っている指標が採用される。

ニュースアラート
 ローソクシグナル

図 18 売買条件の設定

b) 結果の表示

- 投資結果は、時系列チャートに重ねて表示されます。

緑枠は、投資開始時 橙枠は、投資終了時 赤枠が売り 青枠が買いです。

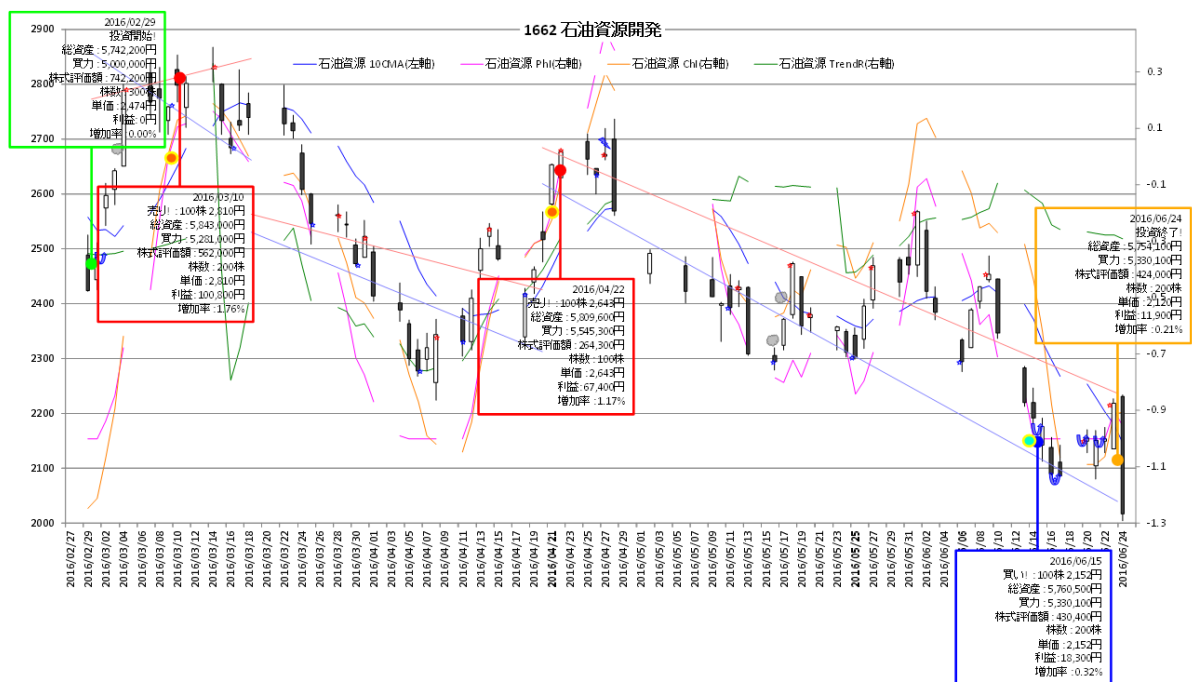


図 19 時系列チャートに売買記録を表示

- 投資レポートを表示

1) チャート

資産(左軸)と株価(右軸)の推移がわかるチャートを作成します。水色が買力、橙が保有株式評価額、積上げ棒グラフの全体高さが総資産の推移です。

2) 条件

売買の指標条件を表示します。

3) 要約

取引の要約(開始時の資産、終了時の資産)を表示します。

4) 明細

取引明細を表示します。

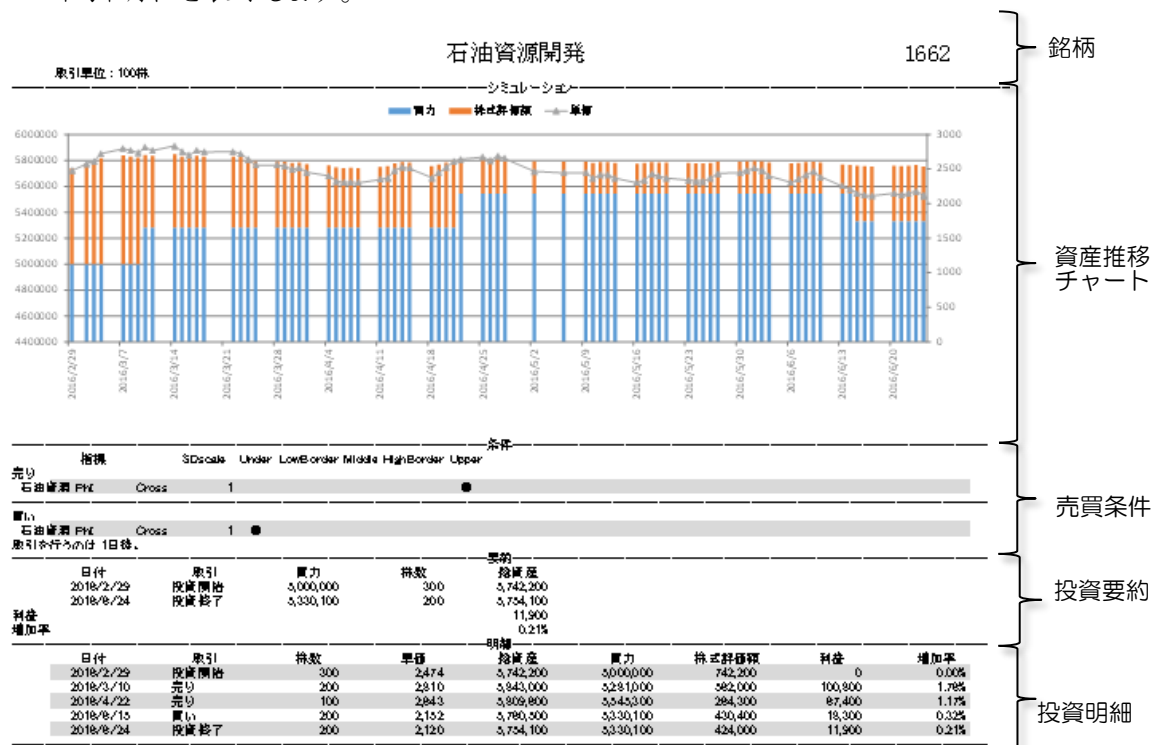


図 20 投資レポート

有望銘柄を発見。

[ScatBrand]

市況を一望するとともに、特異な指標を持つ銘柄を発見します。

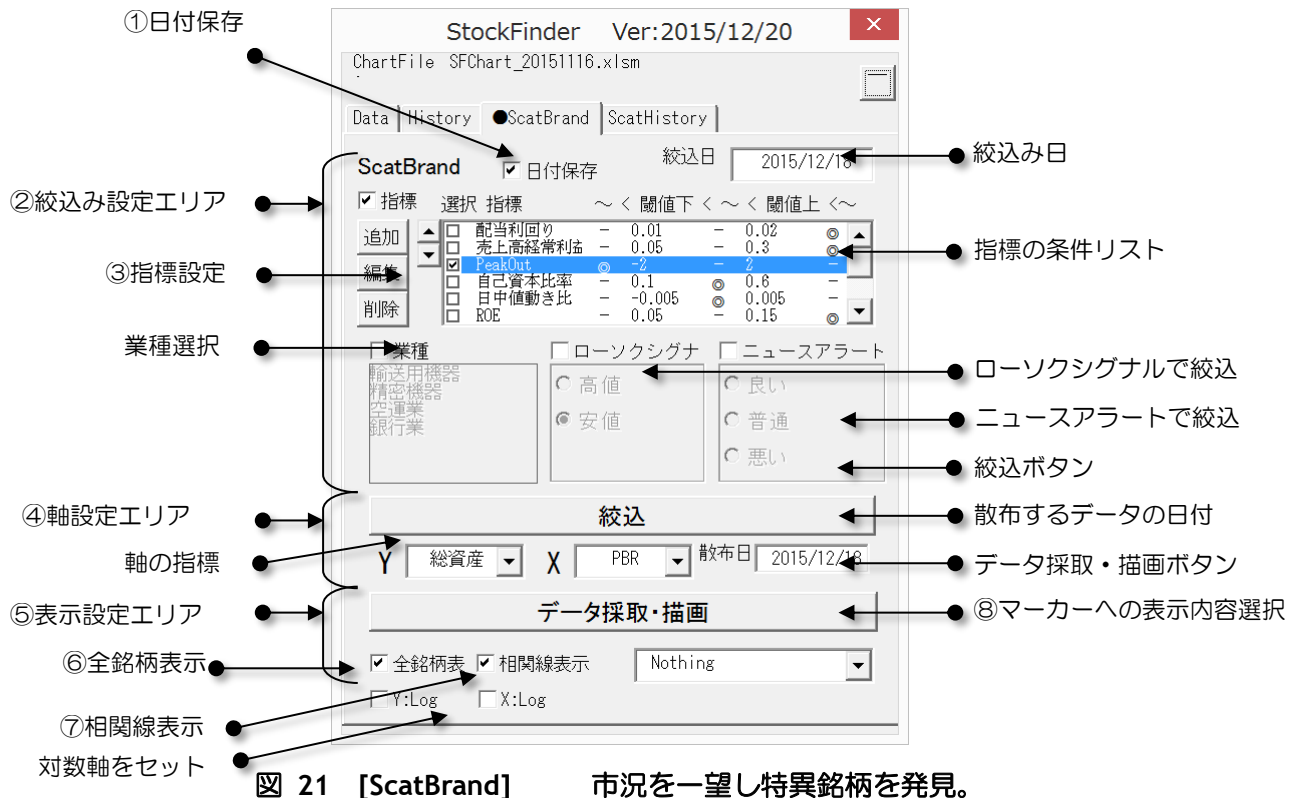


図 21 [ScatBrand] 市況を一望し特異銘柄を発見。

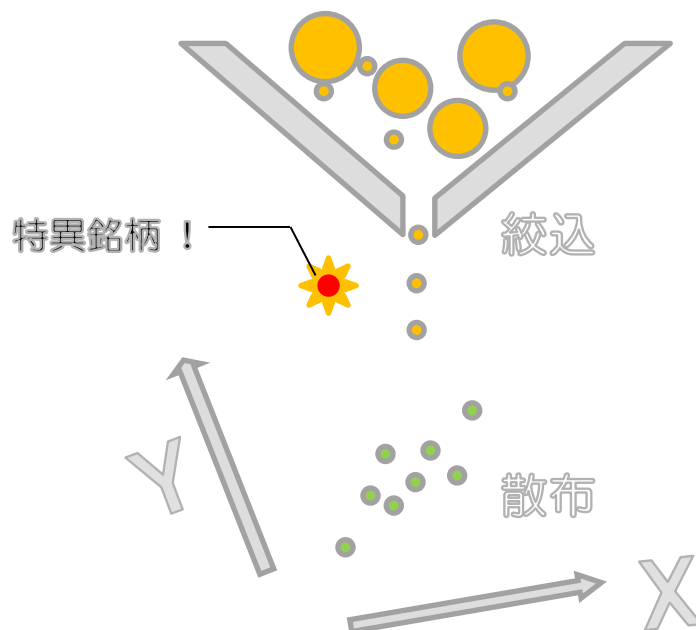


図 22 銘柄を絞り込み、指標で散布

一定の条件で絞り込み、さらに指標で散布することにより、市場における銘柄の位置づけを確認します。まとまりから外れた銘柄は、近く指標が修正されるかもしれません。

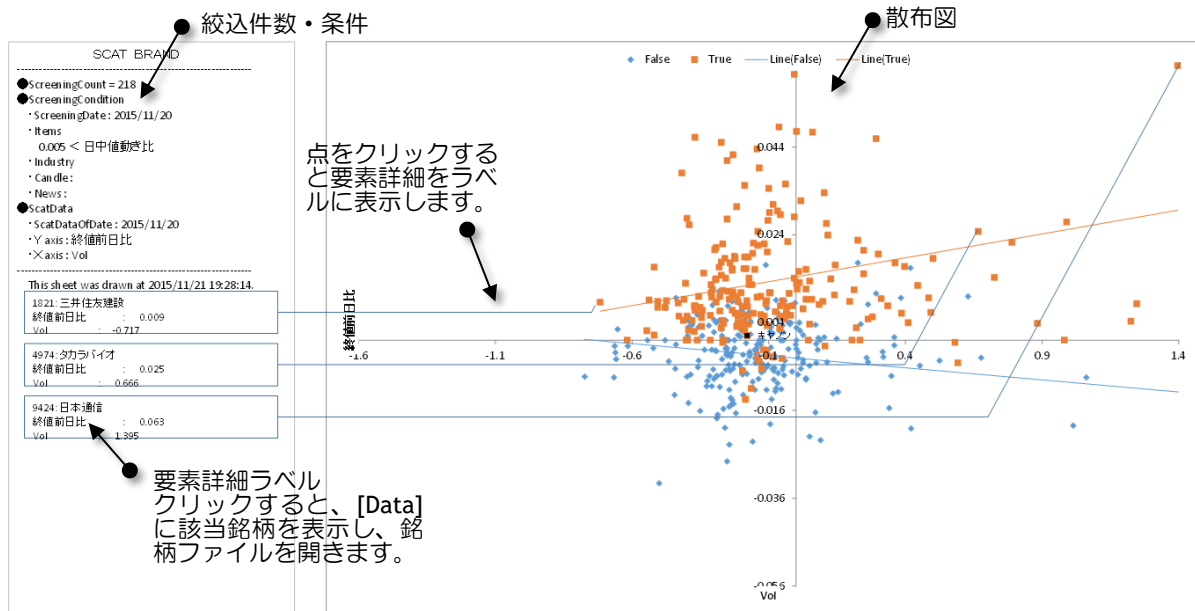


図 23 ScatBrand チャート

チャートの左側には、絞込みの件数や条件を表示します。

散布された銘柄マーカーをクリックすると、マーカーの要素詳細をラベル表示します。

さらに、ラベルをクリックすると、[Data]に該当銘柄を表示し、銘柄ファイルを開きます。

さらに、その Historical チャートを見ることで、銘柄の詳細を確認できます。

チャートファイルのチャートスクローラーで、表示範囲を変更できます。初期状態では、絞込み銘柄の平均を中心として、標準偏差の 4 倍の範囲までを表示しています。その外側に銘柄が存在することもあります。思わぬ銘柄を発見することもあるのではないのでしょうか。

以下ボタンの説明です。

①日付保存

絞込及び、散布するデータの日付をチャートファイルに保存するかどうか設定します。

保存していない場合は、いずれも最後の営業日が採用されます。

データが収集されていないと、チャートは表示されません。ご注意ください。

絞込日と、散布する日付の日は独立して設定できます。それにより、時間の経過により効果の現れる指標の存在も確認できるかもしれません。

②絞込み設定エリア

銘柄絞込みの条件を設定します。指標・業種・ローソク・ニュースで絞込みを行います。

それぞれの条件を満たす銘柄が絞込まれます。

③指標設定

指標で表示銘柄を絞り込みます。

選択された指標で絞り込みます。

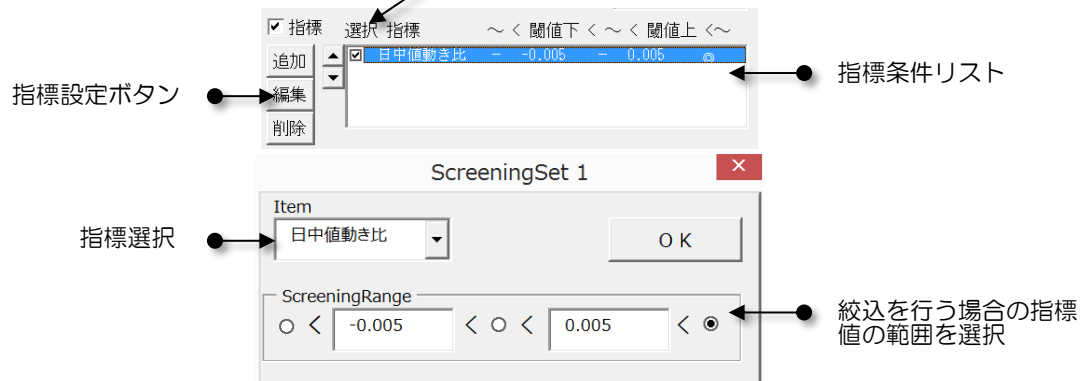


図 24 絞り込み指標設定

④軸の設定エリア

散布図で採用する X 軸 Y 軸の指標及び、散布データの日付を指定します。

絞り込み済の場合は、同じ絞り込みで軸の設定を変更して再描画できます。

⑤表示設定エリア

表示設定を行います。絞り込み 描画済の場合はこの設定を変更すると、チャートを再描画します。

⑥全銘柄表示 ☒ で絞り込み True 銘柄と False 銘柄の両方をプロットします。

⑦相関線 ☒ 相関線を描画します。

⑧マーカーへの表示内容選択

マーカーに付与する表示を選択します。

0	Nothing	なし
1	NameOfBrand-DataTab	[Data]で表示している銘柄の名称
2	CodeOfBrand-DataTab	[Data]で表示している銘柄のコード
3	NameOfBrand-Screened	絞り込まれた銘柄の名称
4	CodeOfBrand-Screened	絞り込まれた銘柄のコード

指標連動性を知る。

[ScatHistory]

指標と指標との連動性を確認し、銘柄の特性を可視化します。

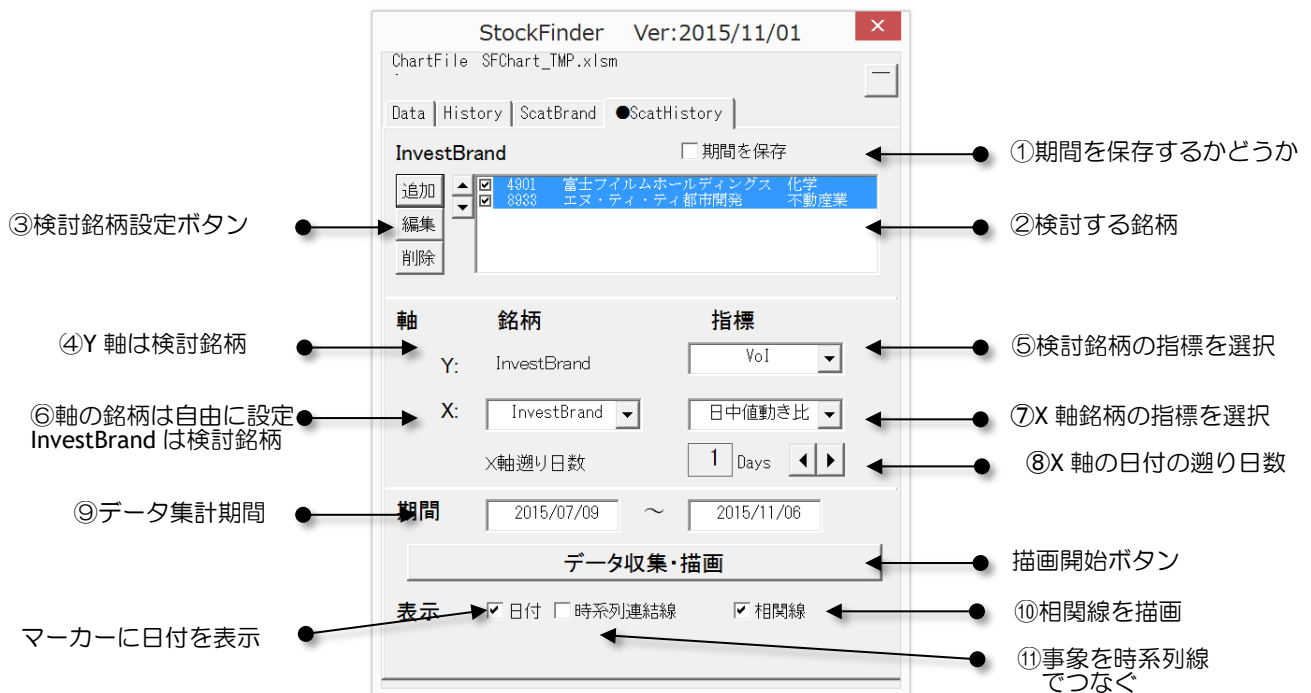


図 25 [ScatHistory]

指標の関係性を知る

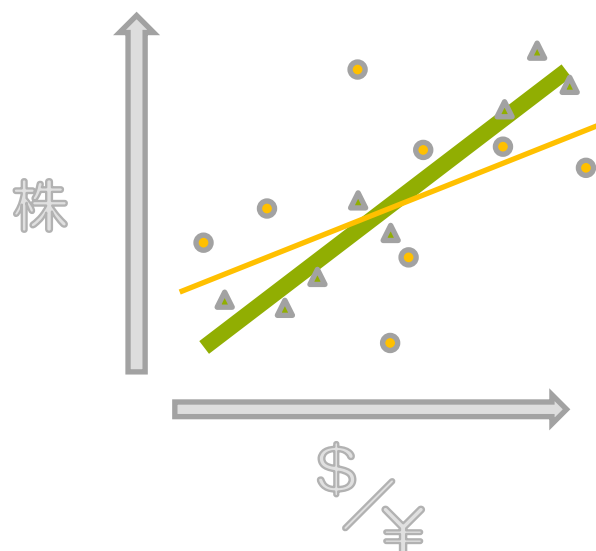


図 26 株価の指標連動性を可視化

前日の\$/¥ が上昇すれば、どんな株価が上昇するでしょうか。

ScatHistory は日付を散布します。したがって、それぞれのマーカーには、日付情報と指標値が含まれています。その情報は、マーカーをクリックすることで表示されます。

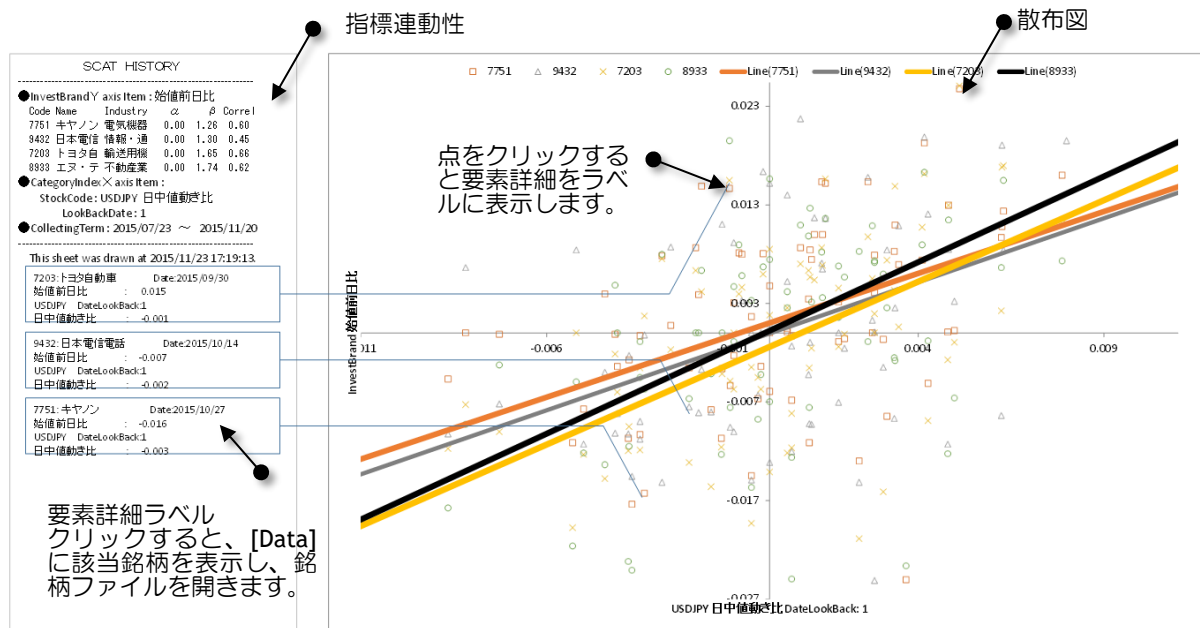


図 27 ScatHistory チャート

相関線の傾きは β で表示しています。相関係数は、Correl 列に表示しています。相関係数の大きさと、相関線の太さを連動させています。よく新聞などで、取り上げられる β 値とは、この β を指すと思います。しかし、相関の確実性は、相関係数に現れるため、こちらも無視できません。ちなみに縦軸も横軸も同じ指標で作図すると、相関係数は 1 となり、非常に太い相関線が描かれます。

チャートの左側には、絞り込みの件数や条件を表示します。

散布された銘柄マーカーをクリックすると、マーカーの要素詳細をラベル表示します。※さらに、ラベルをクリックすると、[Data]に該当銘柄を表示し、銘柄ファイルを開きます。

さらに、その Historical チャートを見ることで、銘柄の詳細を確認できます。

(※最後の銘柄及び 2 以下の系列を表示している場合は反応しません。Excel 未解決の問題点)

DateLookBack とは遡り日数のことで、Y 軸に表示するデータよりも何日遡った日の指標値を採用しているかを示します。例えば、前日の\$/円日中値動き比と当日の終値前日比や前日の NY ダウ値動きと当日の株価値動きなど、異なる日付の指標を比較する際に用います。0 の場合は、同じ日付の指標のデータを表示します。

チャートファイルのチャートスクローラーで、表示範囲を変更できます。初期状態では、平均を中心として、標準偏差の 2 倍の範囲までを表示しています。その外側に事象も存在すると思います。

以下ボタンの内容の説明です。

①期間を保存するかどうか

☒で期間を保存します。☐で期間は保存されず、最後の営業日を含む長期期間×3の営業日数分のデータが採用されます。採用する期間により、連動性は異なるかもしれません。

②検証する銘柄

複数の銘柄を比較検証できます。

③検証銘柄設定ボタン

検討対象とする銘柄を選定します。

④Y 軸は検討銘柄

銘柄を検討するための散布図であるので、Y 軸を検討銘柄の指標軸として固定します。

⑤検討銘柄の指標 検討銘柄の確認指標を選択します。

⑥X 軸の銘柄・基本指標は自由に設定

X 軸は条件を設定することを想定しています。したがって、特定の銘柄でもよいし、InvestBrand(検討銘柄)でも構いません。例えば、ここに DowJones を指定すれば NY ダウを X 軸の銘柄として取り扱います。InvestBrand であれば、Y 軸に表示するデータが 7751(キャノン)のとき、InvestBrand も 7751(キャノン)となります。

⑦X 軸の銘柄指標を選択

X 軸に採用する指標を選択します。

⑧X 軸の遡り日数を指定します。

日本の株価は、前日の NY 市場の動きの影響を受けます。したがって、直接の影響は 1 日前の指標から受けます。その場合は、遡り日数に 1 を指定します。

⑨データ集計期間

データを集計する期間です。期間により、相関性が異なる場合もあると思います。

期間を保存のチェックが OFF の場合は、直近の営業日から長期期間の 3 倍の営業日数前までの期間とします。

⑩相関線を描画

散布したデータの相関線(回帰直線)を描きます。相関係数が大きいほど太く描きます。

⑪事象を時系列線でつなぐ

ポイントの日付の順に直線でつなぎます。

サインアップ

自動巡回で、最も大切な時間を獲得

銘柄リストによる自動巡回は、サインアップを行うことで可能になります。
では、サインアップまでの手順を説明します。

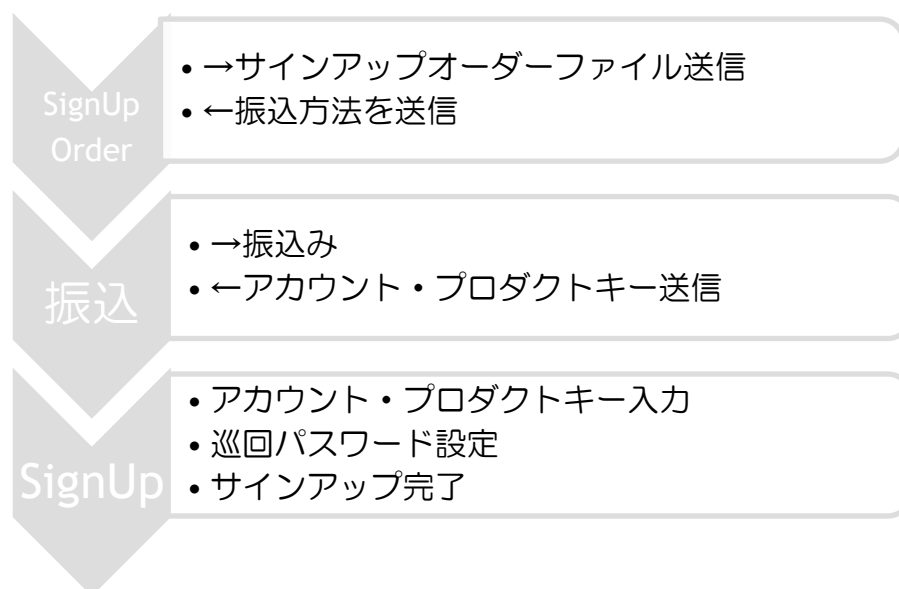


図 28 サインアップの手順

[Data]左下にサインアップ関連の操作ボタンが表示されています。初期状態では、



「SignUpOrder」と表示されています。
このボタンを押すと、左記オーダーファイル作成画面が表示されます。ユーザー名はパソコンに登録されているユーザー名が表示されますが、この画面でパソコンのユーザー名とは別の名前でも登録することも可能です。

図 30 Sign Up 図 29 オーダーtxt 作成

図 26 の画面で OK ボタンを押すと、その内容で、StockFinder.xlsm の登録されたフォルダに SF_SignUpOrder.txt というファイルが作成されます。

1-1 このファイルをメールに添付して、OFFICE-KATSUYAMA までお送りください。

- 1-2 当方より登録手数料の振込方法を記載した請求書を送信します。請求先・振込者ご名義とユーザー名が異なる場合には、1-1 のメールでお知らせ願います。
- 2-1 請求書に従いお振込みください。
- 2-2 お振込み確認後、アカウント番号とプロダクトキーを送信します。
- SF_SignUpOrder.txt ファイル作成後は、サインアップ関連ボタンは、「SignUp」に変わり、SignUp 待ち状態となります。
- 3-1 当方よりアカウント番号、プロダクトキー到着後「SignUp」ボタンを押して、サインアップを実行してください。



図 31 SignUp



図 32 アカウント・プロダクトキー入力

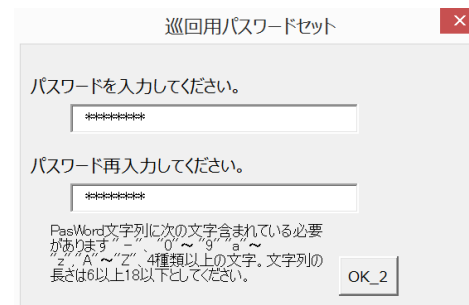


図 33 巡回パスワードセット

「SignUp」ボタンを押すと、まず図 32 のアカウント・プロダクトキー入力画面が表示されます。そこに届いた情報を入力してください。プロダクトキーは、大文字小文字アルファベット、数字、「-」で構成されています。文字数は4桁×4の計16文字です。

次に、図 33 により巡回パスワードを入力します。巡回パスワードは、ソフトを起動する際に毎回入力することになるため、メモを取るか、覚えやすい文字列をお勧めします。

パスワードは、6文字以上16文字以下、アルファベット、数字が含まれ、4種類以上の文字で構成するようにしてください。

サインアップは有償とさせていただきます。ソフトウェアを開発するためのコストを回収するための対価とご理解いただけましたら幸いです。自動巡回により、多くの銘柄のデータ収集の

ためにパソコンに張り付いている必要はなくなり、その時間をリラックスしたり、読書をしたり、食事をしたりと、最も大切な時間というコストの節約につながります。数回の巡回で、コストは回収されるのではないのでしょうか。

サインアップは、SF_SignUpOrder.txt ファイルを作成したパソコン・ソフトでのみ可能です。したがって、自動巡回を行うパソコン毎にサインアップが必要になります。またパソコンの ComputerName を変更すると、自動巡回できなくなりますので、ご注意ください。

●バージョンアップ

本ソフトは品質向上のため、不定期にバージョンアップを行う場合があります。

株価データは引き継ぎ、新バージョンでのフォーマットで保存していきます。

既にサインアップをされている場合には、サインアップ情報を新しいバージョンのソフトに移行する必要があります。そのための手順を説明します。

いきなり、新しいバージョンの StockFinder.xlsm を上書きコピーしてはいけません。

4-1 念のため、サインアップされた StockFinder.xlsm を他のフォルダにバックアップします。

4-2 VerUp ボタンを押します。すると、StockFinder.xlsm と同じフォルダに

SF_VerUpFrom_#####.xlsx というファイルが作成されます。

4-3 新しいバージョンの StockFinder.xlsm を同フォルダに上書きコピー

4-4 新しくコピーした StockFinder を起動すると、新しい StockFinder にサインアップ情報が移ります。



図 34 VerUp

※ バージョンアップはサインアップ後 1 年まで有効とします。その後は再度アカウントを取り直してください。前のアカウントをお持ちの場合はお知らせください。割引を適用します。

おわりに

時は金なり

相場に関する格言はいくつもあります。

「相場は相場に聞け」

アナリストは、発言に証券会社の制約がかかります。売り抜きたいときに、まだまだ上がる、大丈夫などと発言するのではないのでしょうか。

「売り買いは腹八分」

よくばりは、失敗のもと。

「株を買うより時を買え」

株を買うタイミングがあります。今は安い時なのか、高い時なのか。冷静になりましょう。

本ソフトは、ユーザーがパラメタを変更し、様々な視点から市況、トレンド、潮目を分析できるように作成しました。したがってユーザーの設定により、異なった結果が取り出されるでしょう。使いやすい分析方法をご自身で発見してください。本ソフトがその一助にでもなれば幸いです。

また、皆さまのサインアップのご注文をお待ちしております。

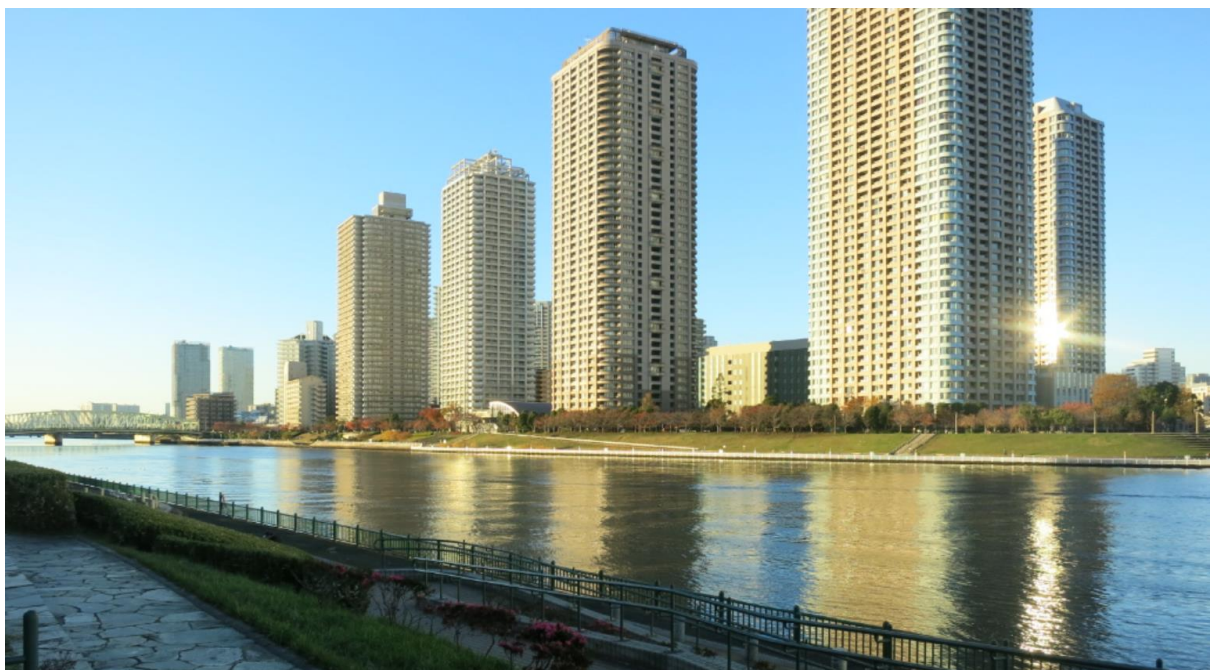
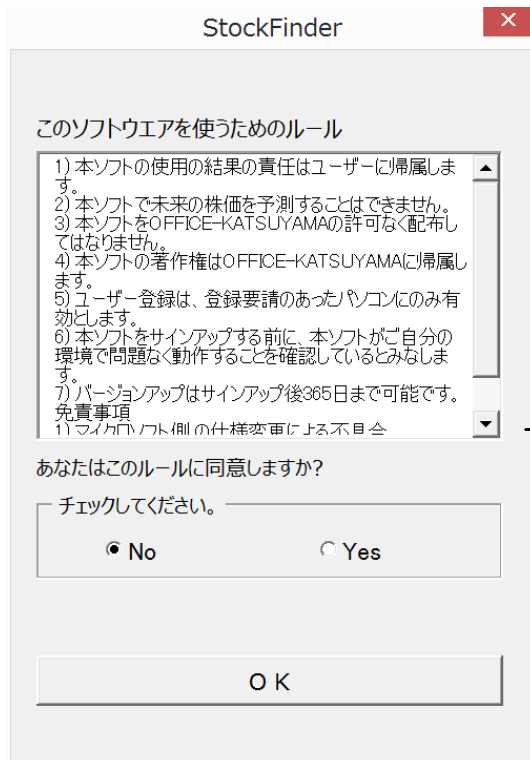


図 35 朝の時間 隅田川

本ソフトを使用するにあたり、一般的なこととは思いましたが、ルールを設けさせていただきました。ソフト使用中言語を設定後は、1 度だけ、以下のメニューが表示され、ルールに同意しないと、使用できない設定としました。メニューが表示されていない状態においても、本マニュアルにより、ソフト利用者は以下のルールに同意しているとみなします。同意できない場合は使用をご遠慮くださいね。

本ソフトを使用するためのルール



- 1) 本ソフトの使用の結果の責任はユーザーに帰属します。
- 2) 本ソフトで未来の株価を予測することはできません。
- 3) 本ソフトを OFFICE-KATSUYAMA の許可なく配布してはなりません。
- 4) 本ソフトの著作権は OFFICE-KATSUYAMA に帰属します。
- 5) ユーザー登録は、登録要請のあったパソコンにのみ有効とします。
- 6) 本ソフトをサインアップする前に、本ソフトがご自分の環境で問題なく動作することを確認しているとみなします。
- 7) バージョンアップはサインアップ後 365 日まで可能です。

免責事項

- 1) マイクロソフト側 の仕様変更による不具合。
- 2) 株価情報提供ホームページ側の変更による不具合。
- 3) インターネット環境の変化による不具合。

図 36 ルールへの同意確認画面

※添付のマニュアルの言語により差異がある場合には、日本語版の記述を正とします。

- 2015/12/5 初バージョン(Ver2015/12/05)公開。
- 2015/12/14 下記銘柄指標を軸に採用可能な指標として追加。
・EPS・BPS・売上高・営業利益・経常利益・当期利益・一株配当・総資産・純資産
合計・時価総額・株式益回り・売上高経常利益率
- 2015/12/20 ScatBrand の散布図で対数軸を選択できるようにした。
- 2015/12/30 ScatBrand の散布図の表示範囲を絞込銘柄の平均±標準偏差×4に変更。以前は、全銘柄の平均±標準偏差×4としていた。(これでは広すぎて絞込み結果がよく見えない。)
- 2016/1/17 基本指標に上海株式指数と VIX 短期先物指数を追加。
- 2016/1/22 基本指標に日経 VI 先物指数を追加。
- 2016/3/13 基本指標に JPX 日経インデックス 400 を追加。
- 2016/4/25 株式指標に TrendR(Trend÷長期移動平均)×100 を追加。
- 2016/5/10 指標 TrendR について -1.0～+1.0 で推移するようにピークカットを設定。
- 2016/5/30 指標「TrendC」と「PeakOut」について、他の指標と値の範囲をそろえるため、数値を100で割り、-1.0～+1.0 で推移するように、ピークカットを設定。
(株式データの過去の指標を現行に合わせるためには、一度だけ指標計算日数を十分長く設定します。)
- 2016/6/25 運用シミュレーション機能を追加。
- 2016/9/24 操作パネルに機能の説明が表示されるようにした。
- 2016/10/7 穀物指数連動受益証券発行信託の HP サイト消滅したため、基本指標から削除。
- 2016/11/05 JPX400 を基本指標から削除。ScatBrand メニューを一部変更。
- 2016/12/03 新指標 ChR VoR PhR を追加
- 2017/4/5 日経新聞 HP の仕様変更に対応。
- 2017/11/2 コントロールパネルに画像キャプチャーボタンを追加。
- 2017/12/5 ScatBrand において、[□全銘柄表示]が OFF の場合、XY 指標値の採取は絞り込み条件に合致したもののみにする。時間短縮を優先。
[☑全銘柄表示]ON にチェックを切り替えた場合は、絞り込みから再実行します。

連絡先

OFFICE-KATSUYAMA

勝山 真

Katsuyama.shin@gmail.com